

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月13日
【四半期会計期間】	第114期第3四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	理研コランダム株式会社
【英訳名】	Riken Corundum Company Limited.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 坂爪 康一
【本店の所在の場所】	埼玉県鴻巣市宮前547番地の1
【電話番号】	048(596)4411(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 杉浦 順
【最寄りの連絡場所】	埼玉県鴻巣市宮前547番地の1
【電話番号】	048(596)4411(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 杉浦 順
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第113期 第3四半期連結 累計期間	第114期 第3四半期連結 累計期間	第113期
会計期間	自平成23年 1月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 9月30日	自平成23年 1月1日 至平成23年 12月31日
売上高(千円)	5,068,805	3,528,418	6,316,598
経常利益(千円)	260,747	90,461	269,629
四半期(当期)純利益(千円)	152,935	78,859	165,233
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	85,717	96,650	84,830
純資産額(千円)	3,754,129	3,788,765	3,747,999
総資産額(千円)	6,294,892	5,776,773	5,905,550
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	16.46	8.49	17.78
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	59.5	65.6	63.5

回次	第113期 第3四半期連結 会計期間	第114期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.70	2.14

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第113期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4. 「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）におけるわが国経済は、国内需要が復興関連を中心に底堅く推移したものの、世界景気の減速や常態化する円高により輸出や鉱工業生産は総じて弱含みに推移いたしました。また、引き続き欧州債務問題や中国経済環境の不確実性から、先行き不透明感の強い、下振れリスクを抱えた状況のなかでの動きとなりました。

このような状況下、当社グループの売上については、主事業である研磨布紙等製造販売事業の減少から、全体としても減収となりました。

また、利益面においても、生産効率化の一層の推進や販売管理費の圧縮等に鋭意努力したものの、売上高減少の影響から減益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高3,528,418千円（前年同期比30.4%減）、営業利益30,102千円（前年同期比86.1%減）、経常利益90,461千円（前年同期比65.3%減）となり、また四半期純利益は78,859千円（前年同期比48.4%減）となりました。

セグメントの概況は、以下のとおりであります。

(研磨布紙等製造販売事業)

当社グループの中核事業である研磨布紙等製造販売事業は、主力市場である鉄鋼、金属製品業界向及び木工製品業界向等が、震災前の水準には戻りきれていない状況に加え、前年上半期の牽引役であったソーラ・半導体等のIT関連業界が、昨年下半年以降の世界的な過剰在庫顕在化と長期に亘った円高等を起因とした国際価格競争力低下による国内生産の停滞により、市場環境が急激に悪化し、取引先の事業停止及び販売価格の下落に伴う影響から、回復が見られないまま現在に至っております。

この結果、売上高は2,830,812千円（前年同期比34.8%減）、営業損失は29,846千円（前年同期の営業利益は174,708千円）となりました。

(OA器材部材等製造販売事業)

当社グループは、複写機、ATM、ファクシミリ、印刷機等の事務機器に組み込まれる紙送り用各種ローラー部品を受注生産しております。

国内におけるこれらの事務機器需要は、市場の成熟化と相俟ってデジタル端末や環境問題等によるペーパーレス化の進行により、減少しております。

このため、事務機器メーカーは低価格志向対応から海外製造移転が加速化しております。

なお、昨年11月実施した国内連結子会社譲渡の影響等から売上高は454,606千円（前年同期比6.0%減）となりましたが、海外での販売連結子会社が好調に推移したこと等から、営業利益は54,122千円（前年同期比9.9%増）となりました。

(不動産賃貸事業)

株式会社ダイエーに賃貸しております理研神谷ビルの賃貸収入は243,000千円（前年同期比0.1%減）、営業利益は188,893千円（前年同期比2.9%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ128,777千円減少し、5,776,773千円になりました。これは主に、持分法適用関連会社の四半期純利益計上により関係会社出資金が37,396千円増加しましたが、売上高の減少に伴う仕入高の減少によりたな卸資産が204,586千円減少したことによるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べ169,543千円減少し、1,988,008千円になりました。これは主に、賞与の支給に備えるため負担すべき支給見込額を賞与引当金として計上したことにより33,300千円増加しましたが、売上高の減少に伴う仕入高の減少により支払手形及び買掛金が93,513千円減少したことと、約定返済が進んだことにより借入金76,312千円減少したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ40,766千円増加し、3,788,765千円になりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は上場会社であることから、当社の株主は市場での自由な取引を通じて決定されるべきであり、当社の支配権の移転を伴う大規模買付行為に対しても、これに応じるか否かは最終的には個々の株主の皆様ご自身の判断・意思に基づくべきものと考えています。

しかしながら、大規模買付行為の中には、会社経営陣との十分な協議・合意のプロセスを経ることなく、また株主への十分な情報開示がなされることなく強行されるもの、あるいはその目的から判断して、企業価値および株主共同の利益を毀損するおそれのあるものなどが含まれる可能性があります。

当社は、このような当社の企業価値および株主共同の利益を毀損するような大規模買付行為をおこなう者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

このような考えから、当社が設定し事前に開示する一定のルール（以下「大規模買付ルール」という）に従って、買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、かつ、当社取締役会のための一定の評価期間が経過した後に限り、大規模買付行為を開始できることとする必要があると考えます。

また、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の中長期的な確保・向上の観点から、不適切または不十分であるおそれのある大規模買付行為に対して、当社取締役会が、原則として株主の判断を仰ぎつつ、当社が設定し事前に開示する一定の合理的なルールに従って適切と考える方策をとることも、当社株主共同の利益を守るために必要であると考えます。

基本方針の実現に資する取り組み

当社は、当社の経営理念を定めた理研コランダム憲章に基づき、短期的または再現性を欠く成果の追求に陥ることなく、当社ブランドである「地球印ブランド」の更なる強化を図ること、また研磨布紙等製造販売事業とOA器材部材等製造販売事業との間の緊密な連携を推進し、競争力の源泉である「技術開発・人材開発力、顧客サービス・市場開拓力」の更なる伸張を図ること、加えて株主、顧客、取引先、社員、地域社会等のステークホルダーの皆様との円滑な関係を構築すること等によって、当社の企業価値および株主共同の利益の向上は実現されることとなり、上記に定める「基本方針」の実現に資するものと考えております。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みおよびその合理性

当社は上記にかかわる取り組みとして、「買収防衛策」を導入しております。この「買収防衛策」においては、取締役会の恣意的な判断を防止するため、大規模買付ルールの設定、防衛措置の内容と実施条件および手続き、特別委員会の設置等に関し詳細に定めております。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、102,926千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数 (株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,000,000	10,000,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 1,000株であ ります。
計	10,000,000	10,000,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	10,000,000	-	500,000	-	89,675

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 706,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,238,000	9,238	-
単元未満株式	普通株式 56,000	-	1単元（1,000株） 未満の株式
発行済株式総数	10,000,000	-	-
総株主の議決権	-	9,238	-

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
（自己保有株式） 理研コランダム(株)	埼玉県鴻巣市 宮前547-1	706,000	-	706,000	7.06
計	-	706,000	-	706,000	7.06

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）および第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	377,796	471,364
受取手形及び売掛金	902,639	801,196
商品及び製品	927,759	771,355
仕掛品	591,354	586,205
原材料及び貯蔵品	279,452	236,419
その他	90,425	138,396
貸倒引当金	5,912	11,227
流動資産合計	3,163,513	2,993,708
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,485,063	3,488,534
減価償却累計額	2,438,825	2,488,484
建物及び構築物(純額)	1,046,238	1,000,050
機械装置及び運搬具	1,547,739	1,647,600
減価償却累計額	1,381,171	1,421,480
機械装置及び運搬具(純額)	166,568	226,120
その他	728,692	733,341
減価償却累計額	299,449	340,968
その他(純額)	429,243	392,373
有形固定資産合計	1,642,049	1,618,543
無形固定資産	34,527	36,954
投資その他の資産		
関係会社出資金	603,688	641,084
その他	464,423	488,884
貸倒引当金	2,650	2,400
投資その他の資産合計	1,065,461	1,127,568
固定資産合計	2,742,037	2,783,065
資産合計	5,905,550	5,776,773

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	741,815	648,302
短期借入金	194,000	32,000
1年内償還予定の社債	55,600	111,200
1年内返済予定の長期借入金	260,568	276,857
未払法人税等	14,174	1,560
賞与引当金	-	33,300
その他	137,709	163,535
流動負債合計	1,403,866	1,266,754
固定負債		
社債	194,400	111,000
長期借入金	219,709	289,108
修繕引当金	49,373	53,503
退職給付引当金	107,673	81,582
役員退職慰労引当金	93,263	104,729
長期預り金	50,000	50,000
資産除去債務	8,520	8,649
その他	30,747	22,683
固定負債合計	753,685	721,254
負債合計	2,157,551	1,988,008
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	98,753	98,753
利益剰余金	3,406,547	3,429,644
自己株式	133,787	133,910
株主資本合計	3,871,513	3,894,487
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	48,737	30,702
繰延ヘッジ損益	10	2,371
為替換算調整勘定	74,767	72,649
その他の包括利益累計額合計	123,514	105,722
純資産合計	3,747,999	3,788,765
負債純資産合計	5,905,550	5,776,773

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	5,068,805	3,528,418
売上原価	4,005,862	2,679,581
売上総利益	1,062,943	848,837
販売費及び一般管理費	846,870	818,735
営業利益	216,073	30,102
営業外収益		
受取配当金	13,240	14,714
持分法による投資利益	89,625	53,820
為替差益	-	516
その他	8,063	15,242
営業外収益合計	110,928	84,292
営業外費用		
支払利息	11,904	9,995
手形売却損	10,933	5,534
売上割引	7,640	8,350
為替差損	31,224	-
その他	4,553	54
営業外費用合計	66,254	23,933
経常利益	260,747	90,461
特別利益		
固定資産売却益	-	279
特別利益合計	-	279
特別損失		
固定資産除却損	26	23
災害による損失	15,528	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	15,844	-
特別損失合計	31,398	23
税金等調整前四半期純利益	229,349	90,717
法人税、住民税及び事業税	85,275	19,072
法人税等調整額	7,773	7,214
法人税等合計	77,502	11,858
少数株主損益調整前四半期純利益	151,847	78,859
少数株主損失()	1,088	-
四半期純利益	152,935	78,859

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	151,847	78,859
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51,763	18,035
繰延ヘッジ損益	3,433	2,361
為替換算調整勘定	1,431	141
持分法適用会社に対する持分相当額	9,503	1,976
その他の包括利益合計	66,130	17,791
四半期包括利益	85,717	96,650
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	86,805	96,650
少数株主に係る四半期包括利益	1,088	-

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
1 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度の末日が金融機関休業日にあたりましたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当連結会計年度末日満期手形は、次のとおりであります。 受取手形 2,768千円 支払手形 25,429千円 2 受取手形割引高は、405,147千円であります。	1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関休業日にあたりましたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当第3四半期連結会計期間末日満期手形は、次のとおりであります。 受取手形 5,119千円 支払手形 6,825千円 2 受取手形割引高は、281,403千円であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
減価償却費 120,315千円	減価償却費 137,142千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年3月25日 定時株主総会	普通株式	27,883	3	平成22年12月31日	平成23年3月28日	利益剰余金
平成23年8月12日 取締役会	普通株式	27,883	3	平成23年6月30日	平成23年9月15日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月27日 定時株主総会	普通株式	27,881	3	平成23年12月31日	平成24年3月28日	利益剰余金
平成24年8月10日 取締役会	普通株式	27,881	3	平成24年6月30日	平成24年9月18日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	研磨布紙等 製造販売事業	OA器材部材等 製造販売事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,341,851	483,755	243,199	5,068,805	-	5,068,805
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	4,341,851	483,755	243,199	5,068,805	-	5,068,805
セグメント利益	174,708	49,231	183,639	407,578	191,505	216,073

(注) 1. セグメント利益の調整額 191,505千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に連結財務諸表提出会社本社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	研磨布紙等 製造販売事業	OA器材部材等 製造販売事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,830,812	454,606	243,000	3,528,418	-	3,528,418
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,830,812	454,606	243,000	3,528,418	-	3,528,418
セグメント利益又は損失()	29,846	54,122	188,893	213,169	183,067	30,102

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 183,067千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に連結財務諸表提出会社本社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	16円46銭	8円49銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	152,935	78,859
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	152,935	78,859
普通株式の期中平均株式数(株)	9,294,128	9,293,393

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年8月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額 27,881千円

(ロ) 1株当たりの金額 3円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成24年9月18日

(注) 平成24年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

理研コランダム株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉本 茂次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大野 開彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている理研コランダム株式会社の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、理研コランダム株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。